

会員数(55・11現在)

逗子地区 157名

葉山地区 232名

大船地区 65名

合計 454名

吟道月報

日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川 碩心会 発行

55・11月

第100号

発行 者 根 岸 岳 萃
編 集 中 村 愛 岳
中 村 山 雪 風
杉 山 雪 風

吟道月報100号記念によせて

会長 根 岸 岳 萃

現在ではすっかり会員の皆さんに親しまれてゐる碩心会の機関誌「吟道月報」が創刊以来一〇〇号に達しました事は慶びに堪えませぬ。当初は会務の連絡のため前会長之三井雪岳先生が編集を一手に受持っていられたが現在は広報部の担当として中村愛岳部長に編集の労をお願いしております。会員数四五〇名と大世帯の当会では会員の皆さんが一同に会する機会が温習会を含めての吟道大会と正月の初吟会のみは制約されてしまった。今、会員相互のコミュニケーションの場として必要欠くべからざる存在となっております。私の提案で奥伝の方々から順次

交替で毎号巻頭に「吟道と私」というテーマでお願いしておりますが、皆さんの吟道に入門されたいきさつ等々、楽しく読ませて戴いていきます。先般も指導者の方々に吟道月報の今後のあり方等意見をいただきましたが、これからも皆さんにより親まれ、より有意義な機関誌として発展するよう御協力をお願いいたします。終りに当初がり切りに印刷にと無料御奉仕して戴きました建設支部の山本青山さんと現在編集にお骨折り願っております広報部の役員の方々に厚く感謝の意を表します。

講習会のお知らせ
皆伝以上(14) 平塚商工会議所 (予定)
七八(14) 平塚農業会館

月報によせて一言づつ

月報創刊号（47年8月）以来本号で百号になり、創刊号の三井先生の創刊の言葉に「今日会員数二百数十名、教場数十五となり、今日の発展を誰が予想したでしょう」とあります。あから八年、今や会員数、教場数とも倍になるといふめざましい発展をします。この機会によりよい月報をと思ひ、先ず指導者の先生方から一言づつ、いただきましたので次に抜萃します。

根岸会長……へ前速の百号によせてと同じ内容の部分は省略。神奈川県下別の会があるが月報発行は当会のみ。春秋の査定後に奥運合格者以上の氏名掲載してほしい、俳句、短歌、其の他ものせるといい、三井先生……内容的に非常によくなり、殆んどどの皆さんが興味をもって読んでいる、以前に掲載した碩心会の歩み、各支部の歩みの後篇を継続してほしい。

小峯先生……入退会欄など、月報を通じて会の状況がよく分る、百号を通じて全員の話し合いの場を持ちたい、悪い面ものせてほしい。

竹石先生……会長他上層部の先生方の言葉をもっとのせてほしい。

加藤先生……経験上原稿募集は大変な事。内容充実しているし、体裁も充実させたらどうか。（タイプ印刷等に）

千葉剣峯……百号迄こぎつけた事に感謝。上層部の先生方の指導性の記事をものせてほしい、記録的な記事を継続してほしい、読みやすく分りやすい。

千葉香先生……細かい配慮がうかがえる、通し番号のない退会者記載の時、整理上教場名の頭文字でもつけてほしい。

松野先生……上層部の指導性の記事をものせてほしい。

中村幸先生……欠席者への配布、遅れても確実に届くよう配慮してほしい。

吟道月報百号によせて

松和支部 下條亮岳

皆様にはお変わりありませんか。このほど会の専属関係紙として愛読してきた吟道月報が十一月で百号となります。大変おめでたいことで、この事が碩心会の歴史に一つの重厚さを加えたと云えましょう。吟道に日夜いそしむ私達会員には、連絡事項や会の動き、その他有益な記事が碩心会の発展に大きく寄与した事は申すまでもありません。

吟道月報と命名した創刊号は、47年8月で当時の会員数は二百名をこえておりました。松和支部が誕生したのは、その前年七月であった事をつけ加えておきます。

さて月報発行までには、原稿募集からはじまり、その整理や配列、校正といろいろの苦勞がありましたよう。こうした作業を手ぎわよくまとめあげ、楽しく読ませて下さる直接担当の先生に深く敬意を表します。今後共吟道月報の発展を期待しております。

広報部より



低気圧が吹きぬけ、柿の葉がすっかりどこかへ舞い散って、熟した赤い実だけがすいこまれそうなき青空にくっきり映えています。

吟道100号という事で何か特集を……と思いつつもいわけになりませんが、吟、舞のおりとこのことで私はやさしく、読みやすくをモットーにづくけたいと思えますので一人でも多くの方に読んでいただけたら幸いです。

(次にお願いを二つ)

記事はなるべく原稿用紙に書いていただくこと割付けがらく。少ない紙面を有効に使いたいので原稿用紙に書き直して割付は大変。配布も丸のないよう！私の教室では配布されるどすぐ一枚づつ氏名を書きこんでおきます。さうすると配布もれがありません。

秋ふかむ 日々にあわせに花八つ手

(愛岳)

昭和五十六年度 審査課題 55/11 55/12

五段	中伝		四段	三段	初伝	二段	初段
謨 詩	和 歌	漢 詩	五言絶句	七言絶句	七言絶句	七言絶句	七言絶句
本能寺(頼山陽) 1/80 書懐(後篇)(西郷南洲) 1/84	敷島(本居宣長) 2/150	築前城下の作(広瀬淡窓) 1/28 東風吹かば(菅原道真) 2/146	児島高德(斉藤監物) 1/76 漫吟(佐久间象山) 1/62 静夜思(李白) 3/38 勸学(陶淵明) 1/71	山行(杜牧) 2/28 雨靈山(乃木希典) 4/32	春日山懐古(大槻盤溪) 3/36 川中島(頼山陽) 1/41 金州城(乃木希典) 1/60	月照十七回忌(西郷南洲) 5/13 自由吟	自由吟
導師範	奥伝			六段	五段		
短歌	漢詩	書法吟詠	新体詩	俳句	短歌	謨詩	和歌
幾山河(若山牧水) 2/154	真木ふかき(今井邦子) 2/155	黄鶴樓(崔顥) 1/98 雪丁洋を過ぐ(文天祥) 1/92	静夜思(李白) 3/56	夏草(芭蕉) 3/156 奥の細道(傘泉の師(松尾芭蕉) 1/144 自然と人生(徳富蘆花) 1/150	晴れてよレ(山岡鉄舟) 4/49 古池(芭蕉) 3/155 夏草(芭蕉) 3/156	水戸八景(徳川斉昭) 2/152 異国の丘(木村岳風) 3/112 わが墓は(木村岳風)講成吟詩集	身はをとい(吉田松陰) 2/152 ふるさと(石川啄木) 2/153 藍関の詩(韓愈) 1/90 瀆流(西郷南洲) 1/86 君が世を(梅田雲浜) 2/151 箱根路を(源実朝) 2/149

師範	漢詩	和歌	俳句	新体詩	法吟詠	書取
獄中作 (高杉晋作) 366 楠河州の墳に 謁して作あり (頼山陽) 386 晴れてよレ (山岡鉄舟) 4149 押してみよ (平野国臣)	々々 蛙 (一茶) 3159 とんぼつり (千代文)	小話なる古城の ほとり (三三) 富士山詠める (山部赤人) 146 旁丁洋を過ぐ (文天祥) 192				

◎ 全国 (山形) 大会 終る

みちのくの山形ならでの花笠音頭のフィナーレとして、帯が雨に濡れ、大変楽しい旅行だったという。来年を又楽しみに、参加者次の通り。

加藤秀岳・千葉剣岳・千葉香岳・森田曉風
 森田嶺風・綾部秋風 黒崎亨風・村田静風
 西村昌風・横瀬秀風・堀越松風・森野徳風
 石津祥風・石渡翠風・田辺伯山 安田常山
 平山栄山・久保田汀山・寺脇歌山・守永寿山
 行谷佳山・松井正泉・三壁照泉・島村恵泉
 大屋正泉・前野君江・立沢千山・多田ヒデ
 竹内鏡子 (以上29名)

全国大会に参加して

逗子A支部
綾部秋風

深まりゆく秋十月十八日、私達の臨時列車は上野を出発し、仙台へと向いました。全国大会参加という緊張感を持ちながらも、どこか旅行を楽しめむという仙台は、秋晴れ瑞巖寺五大堂を見学し、ニュー水戸屋ホテルに着きました。全国大会に備え、合吟の練習のあと、隠し芸を楽しみ、オーストリアは早く休みました。

大会当日は、いにくの雨で、バスで会場へ着くと、すぐに私達女子の合吟「偶成」午後男子合吟「大楠公」神奈川県全員大会の「富士山」等、すばらしい出来ばえで、常盤先生からおほめの言葉をいただきました。

無形文化財の鼓笛隊の音色に合わせて、会場入場、理事長松井岳洋先生の御挨拶、各先生方の祝辞等、式典がおごそかに行なわれ、大会の最後には、花笠音頭の歌と踊りに、会場が包まれるはなやかなうちに、オーストリア十八回全国吟道大会が終りました。

皆さんがさわやかな気分では会場をあとに上の山温泉へ向いました。温泉での一夜は又楽しく湯芸大会一同大張り切り、珍芸続出に大笑いをして日頃のストレスを吹き飛ばしました。最後の日は又雨にたたられ蔵王の山々が霧につつまれている事を残念に思いました。山頂では一瞬霧が晴れお釜のブルーを見ることができたのは幸いでした。年に一度の地方大会に又来年と皆様と別れ帰途につきました。未年は三重県伊勢市と決定したそうです。皆様もどうぞ御一緒に楽しい旅をいたしましよう。お骨折りはただきました先生方に厚く御礼申し上げます。

全国大会によせて

森田曉風

秋晴れのいい日旅立ち みちのくへ

吟道大会山形へゆく

みちのくのいでゆの里の上の山

雨にけむりて蔵王はみえず

山頂にお釜をみんときてみれば

霧にかくれて見えす残念

(人) △△

(逗子A支部) 伊藤八重子 逗子市山ノ根十十三

(電) ○四六八一七一一七三七五

(国分支部) 池田 喜利 葉山町下山口二〇一

(電) ○四六八一七八一八五一一五

() 黒崎 武幸 〃 〃 一一一四

(電) ○四六八一七八一六八五四

() 黒崎よれ子 (住、電右に同じ)

() 小泉 芳美 葉山町下山口一〇九

(電) ○四六八一七八一六七七〇

() 小林 一男 横須賀市森崎二二四一六

(電) ○四六八一三六一七五八五

() 寺島 厚夫 川崎市高津区又末六五七

(電) ○四六八一七八一七九〇七

() 名畑 朝子 横須賀市不入斗 四一四

(電) ○四六八一二五一六〇九六

() 長谷川喜己雄 葉山町上山口八三〇

(電) ○四六八一七八一七四七〇

() 加藤 芳子 〃 〃 堀内一ニ〇〇

(電) ○四六八一七八一五五五五

(退会) 吉武梅泉 (変更) 重松由山 逗子BよりAIへ